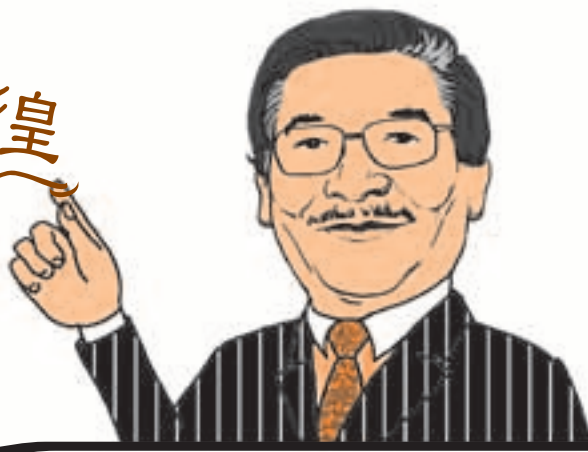


久保利 英明の グローバル彷徨



イラスト・題字：長峯亜里

第5回

「アフリカの奇跡」を生んだ 大虐殺の国——ルワンダ共和国

日本発 22 時間のロングフライト

わずか 100 日で総人口 750 万人中約 100 万人が殺害されたとされる、1994 年のルワンダ大虐殺から 20 年が経とうとする 2013 年、私はルワンダを訪れた。

ルワンダは中部アフリカ内陸の小国で、赤道に近いが高地に位置している。人口は 1161 万人だが、アフリカの中でも人口密度が極めて高い。

私は 13 年 12 月 27 日、夜中の 1 時 30 分に羽田を発った。ドバイ、ナイロビを経由してルワンダの首都キガリに到着したのは現地時間の 16 時 50 分だった。日本との時差が 7 時間あるので東京から 22 時間 20 分のロングフライトとなった。

キガリには映画『ホテル・ルワンダ』で有名となった「オテル・デ・ミル・コリン(千の丘)」と呼ばれる有名なホテルがある。「千の丘」というのは高地の山岳丘陵国家ルワンダの別称でもある。この映画はルワンダ虐殺の際に、1000 人以上の避難民をかくまった現地支配人の話を基につくられた。しかし私はモダンな「キガリ・セレナ・ホテル」を選んだ。チェックインしたのは現地時間で 19 時を回っていた。前日の 26 日、私は共同代表を務める「一人一票訴訟等価値を求める訴訟」の判決のため秋田にいた。その夕刻秋田から羽田へ、そのまま羽田からドバイへ飛んだので、

ベッドで寝たのは実に 3 日ぶりのことであった。おかげで虐殺の悪夢にうなされることもなく快適に 13 時間爆睡した。

違いのない同国人による大虐殺

ルワンダ虐殺は、1994 年にルワンダで発生したジェノサイドである。4 月 6 日に発生したルワンダ大統領のジュベナール・ハビヤリマナと隣国ブルンジの大統領の搭乗する飛行機の撃墜事件に端を発した。ツチ主体のルワンダ愛国戦線(RPF)が同国を制圧するまでの約 100 日間に、フツ系の政府とそれに同調するフツ過激派によって、多数のツチとフツ穏健派が殺害された。

ルワンダ人の 84% がフツと呼ばれ、次いでツチが 15%、残りの 1% がトゥワと呼ばれ、通常ピグミーの名前で知られている。フツとツチは同じ宗教、同じ言語を共有している。文化的に見た場合、2 つの集団の違いは種族の違いというよりも、植民地支配の都合から利用された人工的なものとの見方も強い。

到着翌日の 28 日、私はタクシーを 1 日チャーターしてキガリの探訪に出かけた。まずドライバーに、「あなたはツチかフツか?」「ツチとフツは外見で見分けられるのか?」「見分けられないならどうして虐殺が可能なのか?」と立て続けに尋ねた。